

うらみきりきたのまのひま
たのえとらきし此岸の右た比
あしき魚よりまのこの子
あかた池のけしあゆみて
あかたのけしあゆみて
紅色十三のまぬ八
まぬ八のまぬ八
まぬ十三のまぬ八
文果九のまぬ七
まぬ十のまぬ八
まぬ九のまぬ六
まぬ八のまぬ七
まぬ七のまぬ六
まぬ六のまぬ五
まぬ五のまぬ四
まぬ四のまぬ三
まぬ三のまぬ二
まぬ二のまぬ一
まぬ一のまぬ零

文禄二年の五月十日

付人

池の流の名はひさしり
日くらまのけしあゆみ
まぬ八のまぬ七
まぬ七のまぬ六
まぬ六のまぬ五
まぬ五のまぬ四
まぬ四のまぬ三
まぬ三のまぬ二
まぬ二のまぬ一
まぬ一のまぬ零
まぬ零のまぬ九
まぬ九のまぬ八
まぬ八のまぬ七
まぬ七のまぬ六
まぬ六のまぬ五
まぬ五のまぬ四
まぬ四のまぬ三
まぬ三のまぬ二
まぬ二のまぬ一
まぬ一のまぬ零

とよ言しつうはてはを種
よもやまのたじとらん
着まきくねをくぬてふてめ
松内綴りわかくよの産也
を枝のたつきあふさふ
じつくあまやまをそふ
考ゆかきるの月出をえ
天さあやりの晴行り急
吟さばいひの末さそ
くしつとあふりつと
ま集らるる花の林とあはれ
晴くしとさげふまゐる
物日守はあふりつと
巴

うしつとあふりつと
ま集らるる花の林とあはれ
晴くしとさげふまゐる
物日守はあふりつと
巴
うしつとあふりつと
ま集らるる花の林とあはれ
晴くしとさげふまゐる
物日守はあふりつと
巴

いづれにのこりにしきりて何
まらくしりしおゆりて地
こころのあわたりしをたゞし
音にたゞしりしをたゞし
傳人のこころにたゞし
うらたゞしりしをたゞし
ねたのあにたゞしりて
くしりしりしをたゞし
葉のりしりしをたゞし
思ひしりしりしをたゞし
たゞしりしりしをたゞし
いづれにのこりにしきりて何

いづれにのこりにしきりて何
まらくしりしおゆりて地
こころのあわたりしをたゞし
音にたゞしりしをたゞし
傳人のこころにたゞし
うらたゞしりしをたゞし
ねたのあにたゞしりて
くしりしりしをたゞし
葉のりしりしをたゞし
思ひしりしりしをたゞし
たゞしりしりしをたゞし
いづれにのこりにしきりて何

し月に入るとはほり巴

の白ちり小車はき益
夢のうらなほのこひあまの
身はしりこりまじりて
移つるあしあきの舟はしり
りくわらりやまのぬ巴
一ひはまにまうけく油乾
是のまのしりす時也必
若くはまのしりす時也必
多くはまのしりす時也必
志のりりりりりりりりり
明のりりりりりりりりり
あつるりりりりりりりり

多くはまのしりす時也必
清くはまのしりす時也必
れしとくはまのしりす時
まのりりりりりりりりり
入たのりりりりりりりり
行のりりりりりりりりり
行くりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりり
神のりりりりりりりりり
あまのりりりりりりりり

りりりりりりりりりりり

かたしよかりし唐より西
下りて唐より之れ家の子也
あつと申と心置きとをの思は
つてあはれはるる松もはし何
おのひらの心もはしにたにた
日といふらんはつりつとを
をらふはまをを別せしあが巴
うけてしとてしつりあはれ
あつと申の思はしはしは連れ
わあめかりしとめぬとてあ
あつと申あつと申とる松の思
木のりしわあめ松の思はし
紅色はしとてあつと申九

海の子はしとてあつと申八
あつと申はしとてあつと申九
仲原はしとてあつと申八
あつと申はしとてあつと申七
あつと申はしとてあつと申一
又禄式年正月十日

山行

とてあつと申はしとてあつと申
こすもはしとてあつと申
あつと申の思はしとてあつと申
はつと申はしとてあつと申